

明治維新の激動と千住

所在地：足立区立郷土博物館 ※常設展示はしていません



慶応4年(1868)5月 縦0.6m 横1.82m

■ 千住宿の高札場

江戸時代、幕府や諸藩の政策は、人通りの多い町や村の出入り口に札を高く掲げて周知されました。札が建てられた場所を高札場といいます。千住宿の高札場は千住ほんちょう商店街南詰の付近にあります。

■ 千住宿高札

慶応4年(1868)1月、旧幕府と新政府の間で戊辰戦争が始まり、新政府は2月9日に江戸城攻略のため東征大総督府を設置します。千住宿高札は東征大総督府が交付しました。

■ 上野戦争

新政府の西郷隆盛と旧幕臣の勝海舟が会談し、江戸城は4月11日に無血開城しました。しかし、旧幕臣の中には新政府に抵抗する者が多く、5月15日に旧幕臣が組織した彰義隊と新政府軍が上野(台東区)で衝突し、新政府軍はその日のうちに彰義隊を鎮圧します。

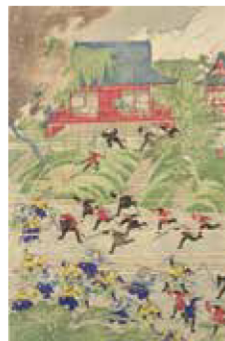
■ 新政府が千住宿に掲げた最初で最後の高札

上野戦争の翌日、千住宿高札が掲げられ、徳川慶喜が新政府に恭順したことや、彰義隊を鎮圧したことを記し、一般の民は安心して生業に精を出すようにと書いてあります。

長年、幕府が掲げてきた高札が新政府のものとなり、千住宿の人々は時代の変化を感じたことでしょう。この高札は、徳川幕府の終焉と新政府の樹立という歴史を伝える生き証人なのです。



「千住高札場跡」の標柱
(千住仲町18—11付近)



寛永寺を戦場にした上野戦争
(原題は「本能寺合戦之図」)
提供：国立国会図書館デジタルコレクション

せん じゅ じゅ じゅ こう さつ けい おう よ ね だ い そう とく ふ さん ぼう ふ こく
千住宿高札(慶応四年大総督府参謀布告)